南無妙法蓮華經　の　径（みち）

〜　Y―…でんでんむし歩き　〜

『クマさん！　白馬山荘が素敵になりましたよ！』と、信介君が意気込んで話してくれてから　二年たった。

昨年もプランしたけれど折りからの悪天で、急遽，蝶ケ岳ー常念岳ー大天井岳ー燕岳へと変更したが、それはそれなりに大きな成果があったが、今年こそは高齢の我が輩を　どうしても　白馬岳ー朝日岳ー蓮華温泉への壮大な縦走コースに招待しようという信介君の意欲に　心が弾んできた。彼は我が輩が山岳部顧問の頃の　頼もしい部員の一人である。

このコースは相当にボリュームがあり、ロートルには手強いが、やはり本命は逃がしたくない～～。で、そのトレーニングに　一週間前の足慣らしとして　スーパー林道の加賀・飛騨乗越頂上からの　三方岩岳・……妙法山を一日　歩いてみる事にする。

でも　これが我が輩らの認識不足で　こんなにスタミナの激しい山とは考えなくて　スイスイととりついて　えらいめに会ってしまったのだ。

H11・7／24　同行は　自転車で　信介君と、同級の女子山岳部員で現役活動中の中山さんとの3人。軽装備（雨具、水筒。食料は彼が準備）で、まだ天候不安定ながら　一応晴れる見込みでスーパー林道の乗越地点に車を下りる。さすがにここまでの景観は　ふくべの大滝、蛇谷など素晴らしく、初夏の気配を充分に満喫できた。

7時40分　まず　のんびりと　頂上の駐車場から右折して右側の尾根を三方岩岳へ……このあと上下、上下を繰り返す。帰りは相当　難儀するだろうと思いながらも　展望は絶佳、ここからのかっての小松高校山岳部のアタック目標だった　大笠山、笈（おいずる）岳は目前に見えて素晴らしく、天候は次第に晴れてきたが白山頂上は雲のためにはっきりしない。

野谷荘司山、三本槍を過ぎる頃までのラストの一回の上下が相当な疲労と時間がかかって、モウセンゴケの自生地の“もうせん平”へ来て　中山さんがやや体調不良でストップ。ここで信介君が用意したパン、マーマレード、チーズの軽い昼食で　やっと落ち着いた。

中山さんは　よく食べるから心配はなさそう。　11時20分　さて、このあと信介君と我が輩とで　目標としていた妙法山へと向かうことにする。ところがこれからの路は　安全なものの、もの凄く下りて更に凄い上り。我が輩は　20日前の富士山行がトレーニングになったおかげでなんとか乗り切れたが　やはり辛い。　彼も相当参ったようだ。　12時00分　ちょうどに頂上到着。ヤレヤレやっとホッとして、一本のカンビールで乾杯！

ここからは白山へのルートも良く見えて、剣が峰、御前峰、大汝峯が並んで白雪がクッキリ。……遠く小松平野らしきものも望めていままでの疲れが　ウソのようだ……。

12時40分　下降にとりかかる。しかし、上下を繰り返し中山さんの待つ、もうせん平に着いて彼女に会ったトタン、スタミナ切れがドッとかぶさってきた。

②

3人再会して　モウセンゴケなどを探してみるが、コース全体が尾根すじで　それらしいものは見当たらない。爽やかに晴れてゆっくりしていたいが　持参の水はきれて水分不足ぎみ。帰路の時間をかんがえて　13時30分　早々に出発。水、水……

ところがここから再び30分で一回ぐらいのペースで五・六回の上下の繰り返しに、妙法山を往復してきた二人のほうは　往時のあのルンルンは夢となって、素晴らしい景観の鑑賞もとぎれとぎれ、（とくに我が輩のバテようは　やはりトシ？）……ほうほうの態で17時00分、もとの駐車場に辿り着いた。ここでの　迸る清水のナント有難かったことか！。

帰宅してからも食欲すらも減少して　なんのことはない、山は好かったが、足慣らしよりも　ひたすら疲れに行ったよう～～。でも、尾根つづきの9時間を　よくもねばったものだ、妙法山からの白山山系への悠々としたコースが望見できた～～、と互いに意義のあった山行を喜び合った。

さて、5日後、予定のプラン、白馬岳ー朝日岳ー…の縦走にとりかかる～～　。

白馬岳はかって　S29年8月に　山岳部員をつれて（当時はテント、食料、燃料、シュラフ持参の悪路）天狗の庭ー白馬頂上ー祖母谷温泉を下った。次が　S54年8月に　医学部学生であった次男の徹（も）とともに、白馬大池小屋↓…小蓮華岳↓白馬岳（古称：大蓮華岳）↓日本一の高所にある山岳温泉の白馬鑓（ヤリ）温泉小屋を経て悪路を下った事があり、今度は3度目だ。

今回は小屋泊りなので　全体に一日の行程が長く　昨年にもキャンセルした如く、体調、天候、コースの安全性etcとなると、中高年となったYー（我が輩）には些か重かったが、みっちゃん（中山さん）と信さん（信介君）それに同級の山岳部で金沢の山岳会で活躍中の弘子ちゃん（北川さん）も加わって、案外淡々と“大丈夫”の連発に　意をつよくする。

先日の富士山行きでテストずみの　雨具、新しいザック、山靴などは使い慣れている。やはり、最近の文化的な装備は合理性が整っていて、ムリをして買っておいて良かった。

7月30日　6時00分　信さん号でスタート、9時00分　蓮華（レンゲ）温泉着。かっての旧い風情のあった小屋は　スッカリ大きな近代的ヒュッテとなって　ここでゆっくりできたら最高なのにと思うが「帰りにこそ」と、装備を整えてすぐ出発。天候は晴れ。体調は一応快適。ただし蒸し暑さは仕方がない。かって　天狗の庭で写真を写したことなど、少し記憶があるが、ほとんどが思い出に出てこない。白馬大池山荘あたりから　ガスがかかり　やや涼しくなる。　17時00分　白馬頂上を往復して白馬山荘に到着。素晴らしいレストランふうのハウスもあって、快晴の北アルプスの大パノラマをゆったりと眺めて乾杯！

改装なって10数年を経た白馬山荘は一五〇〇人収容可能とのことだが、シーズン中なのでほとんど満員で、この晩は一畳に2人だったが以前の混みようを思えば　まずまずの宿泊に満足。それにしてもここまでの登りは相当にきつく、5日前のスーパー林道～妙法山の疲れが尾を引いているようで“今日はよく歩いたネ”と　お互いに　くれなずむ山稜のロマンに心身のほぐれを期待し、明日からの行動へ　快い緊張の夜が過ぎた～。

7月31日

今朝は良く晴れて　さすがに2932mの山稜は厳しい寒さ。さて　今日の行動は…白馬岳ー朝日岳……このコースのメインハイライト。みっちゃんと我が輩とは　体力的に些かビビッたが、信さんの　れいによって安易そうに『朝日岳まで越えれば後はちょっと長いが、たいしたことはないスよ』という強いアドバイスと、スイスアルプスで味わったような洋食風のデラックスな朝食が、あらためて明るい意欲をかきたたせてくれる。

6時30分　白馬からの出だしは　まわりのアルプス全山が完全に眺望でき、素晴らしい景観に欣喜する。だが　足はやはり重いようだ。ゆるい稜線を北に向かう。三国境（長野、富山、新潟の県境）より分岐して　東へは小蓮華山へのコースが延びているのを右に見て、雪倉ー朝日への山なみが続き、遠くスカイラインに朝日小屋がポツンと見える。

狭い稜線の黒部側の斜面の砂地にコマクサが点々としたたかに生えているのがかわいい。鉢ケ岳の巻き道にはシナノキンバイ、チングルマなど、高山植物が豊富、雪倉岳の登りはきついが、順調なペースで乗り切る。しかし、距離の長いのには参ってしまう。信さんの言う“安易さ”は　まるっきり当てが外れるが、いまさらしょうがない。

昼食は信さんメニューのパン、バター、チーズ、ジャム…、弘子ちゃんからのキウリ、ナスの漬物が美味！天気は素晴らしくついていて快適。

～～このコースへ入ってから人影は殆ど見られなくなって、雄大な山容と　今を盛りの高山植物のみを伴として　風の音の静寂のなか、相変わらずの登り下りを　自らの体力と粘りのみを頼りに　ひたすら歩く～～。

16時30分　やっと遠くから望んでいた　待望の朝日小屋に到着！。ところが人が少ないだろうと思っていたのに、小屋へは富山県側からの登山者が多いらしく、が然　小屋も満員。またまた昨夜と同様、畳1に2人　しかも屋根裏部屋、付近にはテントの数も結構多いのだ。

でも　昨夜ほどの寒さはなく、月と星のまたたきが凄くキレイ！　小屋の前で乾杯。一気に疲れがフッとんで、喧騒な人間社会を遠く離れたこの山に入れた感激に酔いしれる。

（福井県の）武生から登ったという相当なベテランらしい50台の夫妻と話が弾む。我々と同じコースだとのことだが、お元気で楽しそう、ご子息も別に今頃は薬師岳あたりへ行っているとのこと、疲れた様子まるだしの我々は　チョット気恥ずかしくなってきた。

日の長い真夏の陽射しでも、帰りの車中は　涼風を受けつつ、暮れかけた飛騨から越中路を　運転に神経を使っている信さんには申し訳ないけれど、白馬岳ー雪倉岳そして朝日岳へと続いた　長かった今度のコースの圧巻である北アルプスきっての咲き競った花々と、辛かったけれど　延々と続いた木道のことなどと、いつまでも胸中に残るだろう印象を気の合った山仲間とのさまざまな楽しかった実践の感慨も含めてそれぞれに語り合い、暮れなずむ山並みに　名残を惜しみつつ、一路　小松へ～～～。

それにしても最もよくバテたのは　Yーだったろうか。あの一週間前に、トレーニングのつもりだった　スーパー林道～妙法山　での消耗の影響が出たのかもしれない。

しかし　信さんのあのスタミナはどうだ！。いや　やっぱり我が輩だけの、トシ！ドジか。でも、まだいくらかは　今後も続けたいし　続けられると、素晴らしい山旅を夢見てかずかずの思い出に浸りきって、年がいもなく　独り悦に入っている……。

ところで今度の実践には、妙な符合が感じられたことだ。まず、妙法山に登って　バテバテのみちすがら口ずさんでいたのが　あの『　南無妙法蓮華經　』の7文字のお題目だった。特別に意味を考えず　幼時から　家に起こった困りごとの祈祷などには　祖母につれられてたびたび市内の妙円寺様へお参りしていたときの記憶が蘇ってきたのかもしれない。　この後、白馬岳の旧称が［蓮華山］と呼ばれていたことを知り、さらにお題目の7字めの”経　“は　径（けい：みち）にも当てるようでもあり　”南無　“とは「帰依する」　との意から～～真摯に妙法蓮華への道を歩んで行く～～などと勝手な解釈をしてみた。この山旅の途中の難行の折々には　無意識にこの7文字が胸の内に浮かんできたようである。

高頭　式　氏（かっての日本山岳会員：日本山岳志編者）によれば『飛騨高原に　蓮華三峰と称するものあり、曰く　蓮華山（別称：朝日嶽、大蓮華山）、雪倉嶽（蓮華山の一峰）、白馬嶽（蓮華山の一峰）とあり、さらに　鑪嶽（蓮華山の一峰：朝日嶽の南にしてその別峰なり。雪倉嶽：鑪嶽の北に位す。』と。

深田久弥氏の「日本百名山」によれば　白馬岳は　信州側からは代田掻きの馬（代馬：シロウマ）の　代馬岳　と呼ばれ、日本海側からみると　北に位置しているから雪が多く、その白雪に輝く山の姿が蓮華　の開花に似ていたから　大蓮華山　とよばれたという。

インドの国華である蓮華は　汚泥の中から清らかに抜きんでて気高く咲くことをあがめたものだろうか。　お釈迦さまの台座にもなって、まさしく真理（仏教でいう“法”）を説かれるに相応しさを秘めている。経典の“経”の意は　法を説かれた内容を綴った物と言う。

Yー自身、法華経の教理には難解だが、真理の探求を掲げた　日連上人　の透徹した生き方に　なにかしら導かれるようで、宗派が違うけれど節分の日には妙円寺様で　声高にお題目を唱え、振る舞いの甘酒を頂き、マメを拾うことを楽しみにしている変な信者なのだ。～～　さまざまの意味で、今度の山旅は　妙に得難い快挙だったと、真珠のように心奥に輝いているようである。